

令和4年1月7日 市長定例記者会見 会見録

◆司会

それではお待たせいたしました、ただいまより市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

おめでとうございます。去年中はお世話になりました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。皆さんは、年末年始どう過ごされましたでしょうか。昨年に比べて、私も穏やかに過ごさせていただきました。年の瀬には、静岡競輪場で KEIRIN グランプリ 2021 が開催されました。無事開催されたわけですが、その上、売上額が目標としていた 120 億円を超えまして 129 億円に達しました。とても盛況のうちに終了することができました。おかげさまで、ありがとうございます。

さらに、今年に入って3日の日にはグランシップで2年ぶりに成人式の式典も開催することができました。とても印象的だったのは、「今年は開いてくれてありがとう」と多くの新成人に声を掛けてもらったことでもあります。約 3,200 人の新成人の皆さんが参加してくれました。本当に新成人の皆さん、おめでとうございます。そして、何よりも、企画、準備、そして実行と、新成人自らがこの成人式を主催してくれた、その実行委員会の皆さんにもお礼を申し上げたいと思います。

さて、そんな所感を申し上げながらも、このところ新型コロナウイルスの感染者が大都市圏を中心に増えつつあります。静岡市内でも先日、2例目のオミクロン株が確認されました。また既に公表している感染者のうち複数人についてデルタ株の陰性が確認されており、現在、ゲノム解析を行っております。市内でも今後、感染拡大の可能性が心配されます。今週から皆さん、仕事や学校が再開されていますが、引き続きマスクの着用や手洗いの励行といった日頃からの感染防止対策に加えて、感染予防や重症化リスクの軽減を図るために、やっぱり重要になるのが3回目のワクチンの接種であります。そこで、フリップを作成いたしました。ワクチンの種類問わず、「待つよりも打つ」というメッセージを市民の皆さんにお伝えしたいというふうに思います。3回目のワクチン接種では、原則8か月とされていた2回目接種からの接種の間隔について、医療従事者や高齢者施設の入所者等の方に6か月、高齢者の方は7か月、それぞれ接種の間隔を短縮する方針が先月示されたところであります。こうした国の方針の変更を踏まえて本市では、“いのち”を守り、“くらし”を取り戻す、この2つの Life を守るという観点から、当初2月中旬からの開始を予定していた住民接種を前倒しして、2月1日、火曜日から開始することといたします。詳しい情報については決まり次第お知らせいたしますが、2月1日からは市内の医療機関での個別接種を開始します。2月3日からは葵区のクーポール会館を皮切りに、そして、2月中旬からは駿河区のアピタ静岡、清水

区の清水マリビルなどを会場とする集団接種を予定しています。

一方、その接種の予約体制に関しては、コールセンターの増員を図ります。予約専用番号も設けます。ウェブ予約の支援会場も8か所に開設するなど、予約体制の強化を図ってまいります。接種券は今年24日月曜日からの発送を予定しております。

1、2回目の接種の時期から7か月を目途に、順次発送いたします。

一方、今年26日、水曜日から接種の予約受付を開始することになりますので、お手元に接種券が届いた方からウェブまたは電話、予約支援会場等々を活用いただき、予約をお願いいたします。引き続き、接種会場までの移動支援のらくタクも実施しますので、ぜひご利用ください。

いずれにしましても、このフリップにありますように接種するメリットが副反応のリスクを上回るとされております。ワクチンの種類を問わず、タイミングを待つよりも早く打つ、このことを市民の皆さんに呼び掛けさせていただきたいと思っておりますので、ぜひ報道からもよろしくお願いいたします。私からは以上です。

◆司会

それでは、ただいまの発表項目についてご質問のある方は挙手をお願いします。どうぞ。

◆静岡朝日テレビ

静岡朝日テレビですが、今、市長がおっしゃったとおり新型コロナウイルスが大都市圏で急激に増えつつありますが、明日から3連休が始まります。今、市民に呼び掛けたいことはございますか。

◆市長

先ほど申し上げましたとおり、普段からの感染対策を引き続き油断なく実行してほしいということをお願いしたいと思います。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございます。

◆司会

他にございますか。NHKさん。

◆NHK

NHKです。3回目の一般の高齢者の方へのワクチン接種、前倒しは分かりますが、7か月以上というこの数字、期間にされたのは、なぜなのでしょう。

◆市長

国の方針の変更を受けて、1日でも早く接種を受けたいというニーズに応えたものがあります。

◆NHK

6か月にしなかったのは、物理的に今は医療従事者、施設入所者をやっているから、接種のスケジュール的な都合ということでしょうか。

◆市長

おっしゃるとおりです。

◆NHK

特に医学的に7か月が妥当と判断されるようなことを、何か情報があったということではないということですね。

◆市長

おっしゃるとおりです。

◆NHK

分かりました。あと実際、私、市内の親御さんから相談を受けているのですが、ご家族の方に、ワクチンというより注射に恐怖感がある方が、非常に強い方がいらして、接種に対する同調圧力が強まっていくのが怖い、ということをおっしゃる方いらっしゃるのですが、そういった方に対して、この「待つよりも打つ」というメッセージの一方で、無理して打たなくてもいいというようなメッセージは何かありますでしょうか。

◆市長

これは個人個人のご判断なのでそれは任せますけれども、しかしながら、私としては、副反応のリスクよりも接種するメリットのほうが大きいという観点から接種を呼び掛けさせていただきたいというふうに思います。また、妊婦さんのときにも専門家から助言をいただくことによって接種を決断したという、心配している妊婦さんもいらっしゃった。田中所長、その辺り、私が申し上げるよりも専門家の立場から、恐怖感を感じている親御さん、接種をためらっているということですので、ぜひご発言をお願いしたいと思います。

◆田中

今、市長のほうからもお話ありましたように、やはり3回目のワクチンにつきましては現在、かなりいろいろな、全国各地でオミクロン株の拡大が大変なスピードで進んでおります。こういった中、やはりワクチンを打つことのメリットが副反応を含めたデメリットを上回るというのが基本的な、国としての方針ということになっておりますので、それに従いまして、方針におきまして、基本的には打てる方については打てるものを、最大限機会を利用して打っていただくという方針で臨んでいきたいと考えております。また、基本的に問診に関しましては医師が必ず対応いたしますので、そういったご不安があるとか健康上の心配があるという方につきましては、予診の現場で予診医に対しましていろいろと質問をしていただいた上で、ご納得の上、接種を受けていただければと思います。よろしくお願いいたします。

◆市長

ありがとうございます。

◆NHK

ありがとうございます。市長にもう少し伺いますが、そういった先端恐怖症の方などもいらっしゃると思いますので、今、打った方に対する割引サービスとかどんどん広まっていますけれども、打たない方に対する権利の尊重といいますか、差別的扱いがあってはならないというメッセージありましたらお聞かせいただけませんか。

◆市長

それは、もちろんそのとおりです。

◆NHK

何か、お言葉としてあれば。

◆市長

やっぱり差別的な扱いはしないでくださいということを、関係各機関、市民の皆さんに呼び掛けさせていただきます。

◆NHK

分かりました。あと年末、忘年会、新年会の考え方について伺いましたけれども、市職員の方に対する忘年会、新年会の励行というか、経済の後押しの観点からメッセージを出されていましたが、それは今、このフェーズではどう考えていらっしゃるか、お願いできますか。

◆市長

これも、やっぱりバランスを取っていかなければいけないので、臨機応変に対応しなければいけない。やはりオミクロンが懸念されている昨今は、慎重な行動を促さなければいけないというふうに思っております。

◆NHK

今は、市内の飲食店での飲食、会食を市職員に励行するフェーズではないということでしょうか。

◆市長

励行ってというのは、どういう意味でしょうか。

◆NHK

年末におっしゃっていた。

◆市長

励行というのは感染対策を励行するという意味で使う言葉であって、それは励行をお願いしたいと思いますけれども、飲食店に行くことを励行することはちょっと違うと思います。個々人の判断にお任せしますし、飲食店もきちっと感染防止対策を取っている信頼できるお店を選んで、慎重に判断していただきたいということに尽きると思います。

◆NHK

忘年会は後押しするという表現をしておられたと記憶していますが、それについては。

◆市長

それは、フェーズが少し変わってきているので臨機応変に判断してほしいというふうに思います。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

他にいらっしゃれば。SBSさん。

◆SBS

SBSです。今回、2回目の接種日からの間隔が短縮されたことによって、また前倒しできるようになっているのですけれども、その背景には新型コロナそのものであったり、オミクロン株の拡大があるというふうに考えてよろしいでしょうか。

◆市長

おっしゃるとおりです。まだオミクロン株というのは専門家にもよく分からないのですね。重症化しないとおっしゃる方もいらっしゃいますし、諸外国の報道を見るとやはり気を付けなければいけないというふうに思います。基本的にはマスクを着用し、手洗いを励行し、日本人はしっかりその辺りの感染予防対策をしている、きちっとその辺りのところを踏まえてくれているというふうに私は信頼しております。

◆SBS

ありがとうございます。

◆司会

他にございますか。静岡新聞。

◆静岡新聞

静岡新聞です。3回目接種の準備状況ですけれども、先ほどクーポールですとかアピタ静岡店、マリビルという会場のお話がありましたけれども、打ち手の確保の状況はいかがでしょうか。

◆市長

何の確保ですか。

◆静岡新聞

打ち手、ワクチンの。

◆市長

ごめんなさい、分かりました。もちろん、医師会と綿密に打ち合わせをして確保しております。

◆静岡新聞

もう、そうすると前倒しも可能な状況になっているというか、目途が付いたという理解でいいでしょうか。

◆市長

おっしゃるとおりです。

◆静岡新聞

あと、もう1点、すいません。ちょっと気が早いかもしれませんが、高齢者の方の前倒しということですが、その後続く高齢者以外の方の状況というのは、今のところ何かおっしゃれることはありますでしょうか。

◆市長

静岡市でできる限り早い時期での接種を準備していきたいと思いますが、少しその質問に対して補足があれば発言をいただきたい。ないなら結構ですけども。

◆保健福祉長寿局長

保健福祉長寿局長の杉山です。まずは医療従事者の方、それから高齢者の方の接種を優先させていただければというふうに思っております。若い方の接種についても、今、8か月以上経過を前提として準備を進めさせていただいているところです。

◆司会

よろしいですか。他にございますか。じゃあ、NHKさん。

◆NHK

たびたびすみません。メーカーはどこになるのでしょうか、3回目接種の。

◆市長

ん？

◆NHK

3回目接種のメーカーは、ファイザーかモデルナか。

◆市長

ファイザー、もしくはモデルナです。

◆NHK

それはどういう、予約段階で選べるのか、例えば、集団接種ということですよ。

◆保健福祉長寿局長

3回目接種のワクチンについては、ファイザーとモデルナということになりますけれども、集団接種会場についてはモデルナを基本に進めていこうというふうな準備をさせていただいています。ワクチンの供給量の状況もありますので、今、基本的にはそのような状況であります。あと選べるかどうかというところですが、先ほど話がありましたけれども、「待つよりも打つ」という前提でございますけれども、予約する中でファイザー、モデルナを選択して打てる会場が出るような仕組みにもなっていますので、そのような状況の中で選んでいただくことは可能ですけれども、ファイザー、モデルナ、どちらの種類にしても打てるときに打っていただきたいというふうに、私どもとしては思っております。

◆NHK

クーポールやアピタといった集団接種会場はモデルナになって、市中の個別接種会場、開業医さんの所ではファイザーになるという理解でいいですか。

◆保健福祉長寿局長

基本的にはそのように考えています。

◆NHK

ありがとうございます。それは1月26日から、例えば予約サイトとか電話で予約するときに、ファイザーにしますか、モデルナにしますかというのをまず選択してから、それが打てる会場が案内されるということですね。

◆保健福祉長寿局長

また1月中旬以降に詳細についてはお話しさせていただきますけれども、今、お話ししていただいたように、会場を選ぶこと、日にちから選ぶこともできるし、種類から選ぶこともできるような仕組みになります。

◆NHK

改めて市長、交接種に対するいろいろな受け止めがありますけれども、その辺り何かメッセージがありましたら。

◆市長

本当に受け止めはいろいろありますね。ですが、私たちの基本は「待つよりも打つ」でありますので、ぜひ、そういう報道をしていただければうれしいと思います。以上です。



◆司会

よろしいですか。他にございますか。それではないようですので、続きまして、幹事社代表質問に移らせていただきます。本日は日刊工業様です。よろしくお願いいたします。

◆日刊工業新聞

日刊工業新聞です。今年もよろしくお願いいたします。

◆市長

こちらこそ。

◆日刊工業新聞

まず年頭に当たって、今年1年どう市政を取り組んでいくのか、その決意をお聞きしたいと。2点目としては、今、オミクロン感染急拡大を背景にワクチンの前倒しの話もありましたけれども、現時点では、なかなか、このスピードから言うと、ワクチンもちょっと間に合わないような感覚も持っているのですけれども、基本的には最悪を想定した備え、これについて万全であるのか、見直しがあるのか、そして、今年は、コロナで非常に傷んだ経済をどう立て直していくか、これが非常に重要な1年であるというふうに考えております。その辺の地域経済活性化に対する取組、そのお考えと、なかなか話しづらい来年度の話についても、できるところでお話しをいただきたいという3点です。よろしくお願いいたします。

◆市長

大きく3点、順次お答えしたいと思います。まず決意については、喫緊のコロナ対策はもちろんですけれども、中長期的に、ご存じのとおり2015年から進めてきました、第3次総合計画が総仕上げの最終年度を迎えます。これに全力で取り組んでいきたいと思っております。同時に、次の総合計画、第4次総合計画の策定を今年度から始めていきます。3次総でできたこと、できなかったこと、いわゆるPDCAサイクルを回してしっかり検証して、そして、新しい時代の背景の要素、デジタル、グリーン、DXの進展とか脱炭素の促進とか、そういった観点も加味しながら民間企業のビジネスチャンスを生み出しながら、公民連携で持続可能な都市の建設にまい進していきたい、そんなふうに決意しております。

次に、最悪を想定したコロナ対策への思いということではありますが、引き続き、市内で発生した全ての陽性者の検体についての変異株の検査を実施した上で、いわゆる監視体制の強化を図ってまいります。また、第5波の時の最大患者数の3割増の想定で、入院病床の確保、あるいは疫学調査、あるいは濃厚接触者の検査といった業務が継続して行えるよう、田中所長の下、保健所体制の各種、第6波に備えた保健、医療体制を

準備しております。市民の皆さんには、冷静にこれまでの感染防止対策を引き続き行っていただくよう、重ねてお願いいたします。

3点目の経済対策についてであります。このバランスというのは、先ほどにも申し上げましたとおり、重要であります。今後の重点政策としては、引き続き、足元の事業支援を確実にやっていく。そして、ウィズコロナにせよ、アフターコロナにせよ、それを見据えた事業展開など、事業者の積極的なチャレンジを下支えしていく、支援していくということが重要であろうかと思えます。ですから、DXとか脱炭素とか、これをビジネスチャンスにしていこうという企業の皆さんには、しっかり、それを後押ししていく、そんな事業を通じて公民連携で本市の産業支援、産業成長につなげてまいりたいと思っております。一方、交流人口の拡大という点も大事であります。いわゆる消費喚起に対する取組も必要です。市内外から多くの方々に静岡市に来街してもらうような、観光、飲食、買い物を楽しんでもらえるような取組、これは観光交流文化局と経済局の連携、これがポイントであります。その局間連携を指示しておりますので、それについても感染状況を見極めながら、これから順次発表していきたいというふうに思っています。以上です。

◆司会

よろしいですか。

◆日刊工業新聞

はい。

◆司会

ただいまの代表幹事社質問に対して、関連のご質問があればお受けします。いかがでしょうか。よろしいですか。それではその他、ご質問があれば賜ります。挙手をお願いいたします。ございませんかね。よろしいですか。中日さん。

◆中日新聞

中日新聞です。年末に、市長会見の翌週に高橋雨水ポンプ場の問題で水道局から説明がありました。その際に幹部陣がことさら住民のためやむを得なかったと強調して、問題、法令違反犯してしまったことに関して説明されていましたが、市長としては住民のために法令違反認識しながら施工したことは問題なかったと、どう思っていますか。

◆市長

問題があったでしょう。ですので、今回の事案で上下水道局の抱えている課題というも

のが浮き彫りになったというふうに、私は理解しております。ですので、公営企業管理者にも、この責任の所在、それに対する処分について検討しているというふうに伺っておりますので、それを尊重したいと思っています。

◆中日新聞

ちょっとしつこくお尋ねしますが、市長の理解した課題とは何でしょうか。

◆市長

やっぱり管理体制、チェック体制が甘かったのでしょうか。また、必要な情報が上がっていなかったという、組織風土にも問題があったのではないかと、私は思っています。

◆中日新聞

あとは無理を承知な上のお話ですが、組織風土という点で下水道建設課というのが土木職の職員ばかりで構成されていまして、人事面で、事務職を増やすとか、違う職の職員を増やすとか、そういった策はお考えでしょうか。

◆市長

来年度の人事について、総務局と議論しております。そういう方法というのは、これは上下水道局のみならず、いろいろ大事ですよ。やっぱり異業種交流じゃないですけども、そういったコンバートということによって、今までの組織風土が変わってくという事例もありますので、それも一つ検討課題だろうというふうに思っています。

◆中日新聞

コンプライアンスに著しく問題のある組織だと思うので、ぜひよろしくをお願いします。

◆司会

他にございますか。静岡新聞さん、どうぞ。

◆静岡新聞

静岡新聞です、よろしくをお願いします。ちょっとコロナの話に戻るのでありますが、先ほどオミクロンの関係で、今、2人発表されていて、発表している陽性者の中にも何人か可能性のある方がいるという話だったのでありますが、今のところ市中感染は、今、発表されている2人に関しては、可能性は低いというふうにされているのですが、また新しく可能性がある方々の、いわゆる市中感染の可能性というのを、分かる範囲で

教えていただいてもよろしいですか。

◆市長

これは分からないことが多いです。正直、水際作戦を私ども年末にもやらせてもらいましたけれども、かなりやっぱり感染拡大地域との人の交流はありますよね。そういう中では、市中感染について予断を許してはいけないというふうに思っています。

◆静岡新聞

現時点で、まだ、今、可能性がある方々のいわゆる静岡市内での市中感染というのは、イエスともノーともいえない状況ということですか。

◆市長

もし、そういう事例があったら、速やかに発表したいと思います。とにかく市民の皆さんには、市中感染があってもなくても感染予防を励行してほしいということをお願ひしたいと思います。

◆司会

SATVさん。

◆朝日テレビ

朝日テレビですが、昨日、浜松で感染者が12人出たのですけれど、全員が県外で接触して感染して市内に戻って発症したというようなパターンだったのですが、そういった大都市圏への移動を今後、規制していく、ちょっと東京への移動を控えていただきたいというようなお願いしていく可能性はどういうふうに今。

◆市長

今のところ、それはありません。ただし、県外に出掛ける方には、そこで注意深く行動してほしいということは、お願いしたいと思います。

◆朝日テレビ

ありがとうございます。

◆司会

他にいかがでしょうか。よろしいですか。本日もどうもありがとうございました。これにて本日の定例記者会見を終了とさせていただきます。おつかれさまでございました。